

大阪上本町駅(近鉄難波線・大阪線)⑥

新選組屯所跡と夕陽丘に眠る志士たち

谷町九丁目駅(地下鉄谷町線・千日前線) 四天王寺前夕陽ヶ丘駅(地下鉄谷町線)

「大阪あそ歩マップ集」
その3 No.148

近鉄大阪上本町駅

① 島男也旧居跡・川崎孫四郎自刃の地

島男也おのやは常陸(茨城県)笠間藩士で、脱藩して国学者・佐久良東雄らと尊攘運動を展開しました。大坂・坐摩いかすり神社で剣道道場を開き、水戸藩士の川崎孫四郎や高橋多一郎らが集まり、安政の大獄に反抗するために大坂挙兵を計りましたが、事が発覚して大坂奉行所の役人に襲われました。川崎は自刃、島は捕縛され、江戸送りとなって獄死しました。

② 齡延寺

武市半平太(瑞山)の妻・富子の弟で、武市半平太の義弟にあたる島村寿太郎(洲平)の墓があります。寿太郎は半平太が切腹する際に介錯人を務めました。また土佐藩刀工の左行秀ひだりゆきひでの墓があり、左行秀が鍛えた刀は坂本龍馬も一時期、愛用していました。

③ 源聖寺坂

江戸時代、坂の中腹に「こんにやくの八兵衛」という祠がありました。八兵衛は狸で、こんにやくを買ってこの前を通ると、八兵衛さんにこんにやくを取られることから命名されたといわれています。坂の石畳は、大阪市電の敷石を再利用しています。



④ 萬福寺(新選組大阪屯所跡)

萬福寺は西山浄土宗の寺院で、文禄3年(1594)、前田利家の弟・利信と僧・開導によって開創されました。慶応元年(1865)には、將軍・徳川家茂の上洛に備えて、大坂警備のために会津藩が一心寺に、当寺には新選組の谷三十郎以下20人ばかりが屯営しました。

⑤ 口縄坂

口縄とは蛇のことです。坂道が崖を蛇が這うような様子に見えたことから名づけられたといえます。江戸時代には、この坂を登って左(北)側に「西照庵」という有名な料亭がありました(現・大阪夕陽丘学園付近)。司馬遼太郎の小説『燃えよ剣』では、鳥羽伏見の戦いに敗れて大坂に戻ってきた傷心の土方歳三と、京から土方に会いにきた恋人のお雪とが、口縄坂を登って西照庵で逢瀬を楽しむ…というシーンが描かれています。



⑥ 稱念寺

かつて土佐海援隊の出身で坂本龍馬の片腕として活躍し、のちに外務大臣となった陸奥宗光の墓地がありました。また、大阪府の知事代行(府事管理)を務めた薩摩藩家老の小松帯刀も明治3年(1870)に大阪で亡くなって、当地近辺に葬られ、同郷の大久保利通や五代友厚がお墓参りに訪れています。しかし陸奥の墓は昭和28年(1953)、陸奥家の子孫の方が鎌倉に移葬し、小松の墓も明治9年(1876)、鹿児島の方で「小松家墓所」に改葬されました。

地下鉄四天王寺前夕陽ヶ丘駅

